



見え方の実態はそれぞれ違いますが、図画工作・美術では、児童生徒一人一人に創造する喜びや鑑賞する楽しさを感じてほしいと願っています。美術の授業を行う上で、気を付けているポイントと本校の実際の取り組みについて紹介します。

- ① 見て制作する題材の場合は、見やすい状況をつくります。（景、輪郭線、色の組み合わせ）
- ② 視覚だけでなく、手や指を使って触覚を十分に使って制作できる題材や材料を選びます。（平面でも、凸凹があると触りながら制作することができます。）
- ③ 自分の表現を振り返り、友達の表現方法や美術作品の面白さを感じる力を身に付けるために鑑賞の時間を十分に設定します。
- ④ 身近な道具を安全に使うことができるように、道具の扱い方について取り上げます。

【本校の図工・美術の取り組みについて】

* 幼稚部 感触あそび『こむぎこであそぼう』

幼稚部では遊びの時間を中心に、水や砂、泥をはじめ、じっくりと素材に触れる体験を大切にしています。本校では幼児期に素材にじっくり触れ、その素材の変化を楽しむ活動をするることにより、その素材について触ること、見ること、感じることを教師と一緒に楽しんでいます。



素材にじっくりと触れる体験

* 小学部 作品制作『カードで味わう色・形』

小学部では、はさみやのり、カッターなどの道具の扱いも積極的に挑戦しています。この題材では、同じ大きさの厚紙にじぶんのイメージしたテーマで色紙やシールを貼って作品に仕上げました。

「オセロ」左上「夜空」右上といった具象的なものから、「喜び」左下「怒り」右下といった抽象的な作品にし、完成後は作品について自分で説明しながら鑑賞会をしています。



色や形、触感で確認

* 中学部 作品制作『生活の中の焼き物』

中学部の美術では、粘土を素材に作品を制作することが多いです。それは、触って形を確認することができる、可塑性に富んでおり何度でもやり直すことができるなど、見えにくくても視覚以外の感覚で制作することが可能だからです。

今回は、生活で使用できる器を作ることに挑戦しました。粘土の柔らかさ、形の面白さを自分の手で確かめ、時間を掛けて形作っていきます。粘土という素材に長い時間向き合い、納得できるまでやり直すことで作品に対する愛着がわいてきたと感想を述べていました。



粘土にじっくりと触れてカップ作り

* 高等部 作品制作『スチレン版画でポスターをデザインしよう』

スチレンボードを使った版画に取り組みました。

スチレンは、尖ったもので圧力を加えることで、簡単に模様付けすることができます。また、跡がそのまま凹んで残るため、描いた線を自分の指先で確認することができます。

今回は、様々な道具で彫り跡を試し、ドライバーで模様付けすることに決めました。直線や曲線を組み合わせ、じっくりと時間を掛けて制作に取り組むことができました。

刷りの工程も版と版画用紙を固定することで見えにくくても自分で刷ることができます。見えにくさにかかわらず、楽しんで取り組むことができる題材だと思います。



彫った跡を指先で確かめて版づくり



刷りの工程は、多色刷りに挑戦